



復刊第35号

国内外の総会に

出席して

会長 三 神 美 和

第十三回定時総会

昭和四十三年五月十八日

感激にみちた広島での総会から早二カ月経りました。会員の皆様にはお褒りもなく実社会のために活躍の事と存じます。今年の総会につづいて高辻支部長を中心に広島支部の方々は本当によくやって下さいました。参加者一同は、終始気持ちよく過し得、しかも又意気相通じ合ったことを、心から感謝しております。このような会を持ち得ましたことは、主催者の方々のすみずみまで行き届いたご配慮と暖かいお心の賜ものと思えます。もう一度ここに改めて厚くお礼申し上げます。私が会長の重責をお引き受けしてから、一年経ちました。この一年は(先日総会で申し上げましたように)本会が会員

相互扶助の実をあげるために、また社会に貢献するために、如何にすればよいかを考え、計画を立てた一年でありました。会員の皆様のご協力により、年金制度が確立されましたこと、また社団法人の設立準備とそれに伴う定款の改正が行われたことがそれでありました。更にまた万国博覧会への施設参加が決定されたことも大きな計画といえます。これらは日本女医学会が大きく発展して行くために欠くことの出来ないことと考えます。この一年間に立てられたこれらの計画を、今年度は是非とも実行に移されなければならぬと思えます。年金制度は五月二十七日からすでに納入が始まりました。前回にも述べましたように本会の年金は会員自身に有利であるだけでなく、会のために役立つものでありますので、

今後どうぞどしどしお申し込み下さい。会を社団法人にすることは、日本女医学会が社会的に活動をする上には是非とも必要なことであります。日本の女医が組織立って公益のために尽力するには是非とも法人格をもつことが必要であります。厚生省も色々と考えて下さいまして、好意的に指導して下さいますので、目下書類を準備中であります。今年中には、私共の目的が叶うことと期待して居ります。万博施設参加は国家的大事業への参加を意味することであり、日本女医学会がこぞって参加することが大事なことだと思えます。この成果があるかどうかは日本女医の真価が発揮されるかどうかの試金石といえましょう。最高の教育を受け、しかも、医学を身につけた私共が一致協力すれば、この大事業も出来ることを世の人々にはつきりと認識して頂く絶好のチャンスであると思えます。今年には資金面に於いてみりのある年でありまして、希望して、会員諸姉の一層のご協力をお願いする次第であります。

総会がますます活気を帯び盛会になりつつあることは地元皆様の一年間に渡る熱意あるご準備の賜ものであることと申すまでもありませんが、会員の方々の本会への関心の高まりでもありと信じ、まことによろこばしいことだと思えます。国内のみならず、国際的にも注目されつつある時、全会員の一層の自重とご協力を心からお願ひして筆をおきます。

第十一回国際女医会議

昭和四十三年六月二十三日より

六月二十日日本を離れ七月十九日早曉羽田に帰着する迄三十日間わたる慌ただしい旅を思い起すとき、走馬灯の様に各国のごとが浮んでまいります。その間日本の現実と少しも連絡のない日々連続のため、本場に浦島太郎の里帰りのような心地が致しませんでした。

しかしこの間一週間は国際女医会議のためウィーンに滞在し、その主目的を果し得たことは日本女医代表として十分使命を全うしたと言ひ得ましよう。会議のこと、国際女医会での決定事項などの報告は、小野、山崎両氏によつてなされることになっておりますので、私は一行の皆様を代表して会議や旅行の「アウトライン」のみをかかせて頂くことに致します。

今回の旅行について先づ第一に申し上げたいことは、四十一名という多数の団体旅行でありましたが、最後まで一人の落伍者もなく、和気あいあいと旅行がつづけられたことであります。

初めて外国に行かれた方もあり、また年輩の先生もありませんでしたが、会議もよく出席され、きめられたかなりきびしいスケジュールにもよく堪えられました。ひどい病気をされた方もなく、天候にも恵まれ、揃って無事羽田に帰着出来たことは、何といってもよろこばしいことであります。

第二にご報告したいことはウィーンに於ての会議は、立派な王宮の中で行われ、その雰囲気といい、環境といい申し分ないものであったことであります。小野、山崎両氏の講演も各国の方々に非常な感銘を与え、日本女医の名を高め、どこへいっても「ベリー・グッド」と称えられ、私共も胸の張る思いでした。また開催地は名高い芸術の都でありますので、至る所音楽あり、絵画あり、彫刻ありで、一行の皆様も十分満足されたようであります。

尚本会議で特筆すべきは、小野氏が東南アジア方面担当の副会長に選出されたこととあります。国際女医会が会長があつて、その下に九地区から一人づつ副会長を出すようになっておりますが、この度小野氏が一人の反対もなく副会長に選ばれたことは、多年にわたる連絡書記としての功績がかわれたことと思ひます。日本女医会にとって誠に名誉なことと、心から祝福申し上げます。

第三に各国訪問旅行について、二、三の感想を述べたいと思ひます。

このたびは医学学校は二つ見学したのみでしたが、それはあまりに慌ただしい旅行であつたことと、もう夏休みに入つたところが多かったからであります。然し巴里では巴里第一の未熟児センターを見学し、色々得るところがありました。そのことだけで一つの報告が出来る程ですので、また別にどなたかに報告して頂くつもりです。デンマークでは眼科のクリニックを見学し

ました。これは眼科専門の方々为主として見学されましたが、非常に感銘深かったようでした。

また国際親善としてデンマークで前副会長クリステンデン博士を訪問致しました。コペンハーゲンからバスで三〇分位の森の深い美しい町に夕方八時半から一時間余りの訪問でした。三十七名の一行をお家の皆様と、またご近所の女医の方々パーティ式で歓迎して下さいました。お菓子と飲物だけの簡単なものでしたが、その交歓風景は美しいものでした。日本女医学会から真



国際女医学会々議会場  
中央 (オーストリア大統領)



ウィーン市社会福祉局長に招かれて……  
(中央) 三神会長、(左) 小野春生氏

珠のブローチを差上げ、また個人的に茨城の延島先生から竹内先生の刺繍された美しいクッションを差上げ心から喜ばれました。またあちらからはお人形(名産の焼物)を下され、一同感銘するなど十分親善の役を果たしたのと思えます。帰途はげしい夕立でバスの前方も分らぬ程でしたが、一同満足してホテルに帰りつきました。

カ国を駆けめぐりましたが、その国々の状況の細かい点については、帰国後尚日浅く頭の整理がつかかねています。ただ言えることは、鉄のカーテンの彼方と此方とは非常に違うということとです。自由を欲している人間はとも彼方には住めないという印象をうけました。その意味でつくづく日本に住める有難さを痛感しました。

戦後すでに二十三年経過しておりますので、戦争の傷は大分癒えておりましたためか、どこへ行っても日本人としていやな顔をされなかったことは本当にうれいことでした。同じ敗戦国西ベルリンも十年前とは比較にならない程復興しておりましたが、以前には見られなかった東西ベルリンを隔てる厚い壁を見た時胸のふさがる思いでした。若し日本が東京があのようになり二つに区切られていたらと思うと堪まらない気持ちでした。戦後私共もひどいつらさにあいましたが、然し国は一体であり、一つの壁も作られなかった。このことは本当に幸福であったとつくづく思いました。所かわれば品かわると申しますが、一行の皆さまも十分国々の良さ悪さを痛感され、また楽しんで

したためか、どこへ行っても日本人としていやな顔をされなかったことは本当にうれいことでした。同じ敗戦国西ベルリンも十年前とは比較にならない程復興しておりましたが、以前には見られなかった東西ベルリンを隔てる厚い壁を見た時胸のふさがる思いでした。若し日本が東京があのようになり二つに区切られていたらと思うと堪まらない気持ちでした。戦後私共もひどいつらさにあいましたが、然し国は一体であり、一つの壁も作られなかった。このことは本当に幸福であったとつくづく思いました。所かわれば品かわると申しますが、一行の皆さまも十分国々の良さ悪さを痛感され、また楽しんで

### 第十三回日本女医学会定時総会

#### 原爆の地広島にて

議事録 青木豊子・百島喜江  
柳瀬路子・石田妙子

第十三回日本女医学会の総会並びに評議員会は、昭和四十三年五月十八日、世界的に有名な原爆の地広島島のグランドホテルで盛大に開かれた。

議事は終始円滑に運び、特に総会なかばにして、東京荒川あや氏よりの緊急動議があり、私財一千万円を吉岡賞に寄付するという朗報もあり、和気藹々の中に終了した。

議長には三神会長が推され、活発に討議が行われたが、総会の議事と重複するため特記する事以外は省略する。

評議員会  
通知発送 百二十三名  
出席 四十五名  
有効委任状 六十一通  
議長には三神会長が推され、活発に討議が行われたが、総会の議事と重複するため特記する事以外は省略する。

- 出席 一九七名  
有効委任状 一、三一八通  
司会 森 千鶴  
高辻マサエ
- 一、開会あいさつ  
一、講演  
原爆後障害症の展望  
広島大学教授・広大原爆放射能医学研究所長 志水 清博士
- 一、原爆映画上映  
「広島長崎に於ける原爆の影響」  
一、会長あいさつ 三神 美和  
一、議長選出 広島県支部  
一、議事録署名者選出 上田 葉  
一、庶務報告 小野 春生  
一、国際女医学会報告  
一、議題
- 第一号議案 昭和四十二年度決算報告承認を求むる件  
第二号議案 昭和四十三年度収支予算案審議の件 山口 三重  
第三号議案 昭和四十三年度事業計画案審議の件  
社団法人申請経過報告 山崎 倫子  
年金制度実施経過報告 大内 広子  
第四号議案 (社団法人)日本女医学会定款審議の件 松岡 宏子  
第五号議案 万博施設参加の件 東条 一子  
第六号議案 次期総会開催地の件 一、閉会あいさつ 嘉屋 文子  
今回は従来の総会に先立って、特に原爆の地にふさわしく、広島大学教授志水清博士の原爆後障害症の展望とい

う講演及びかの有名な原爆映画の上映が行われ、一同今更に原爆の恐ろしさを一段と思出し、現在の平和な時代に感謝の念をもった。

一、会長あいさつ

多数の会員の出席並びに地元広島の方々の協力で感謝する。日本女医学会は今は現在までのクラブ組織より社団法人へと飛躍するため資金面には年金制度を活用し、事業としては万国博覧会への協力等を行う。このようにして日本女医学会の発展のために全力を挙げて進んで行くつもりである、会員の皆様の心からの協力をお願いする。

一、議長選出

多田深雪氏(広島)に決定

一、議事録署名者選出

佐藤イキヨ、真鍋昌子両氏に決定

一、庶務報告

本会会員数 四千四十九名

四十二年度入会者 九十二名

会員物故者 十七名

物故会員諸霊に全員起立黙禱

会議

常任理事会 七回

理事会 四回

評議員会 三回

総会 二回

他国際女医学会会員歓迎会 二回

一、国際女医学会報告 小野春生理事

1本年度国際女医学会について

場所 ウィーン

テーマ 飢える百万人の飢餓

日時 昭和四十三年六月二十三日

一二十八日

参加者 会長並びに講演者山崎倫子

小野春生両氏他四十名の予定

定

一九七〇年度 オーストラリアの

2 汎太平洋東南アジア婦人会

場所 ハワイ

日時 昭和四十三年八月

参加者 山崎倫子氏講演

3 諸外国の女医学会活動

フライリッピン病の早期発見のため

の検診、託児所、貧民に牛乳を与える運動、辺地の女医の再教育

一、議事(別稿)

第一号議案 昭和四十二年決算報告承認を求むる件

山口三重理事

本決算書の内容についてその正確なる事を確認致します。

監事 松井とし・鈴木文字

質問なし 全員承認

第二号議案(別掲) 昭和四十三年度収支予算案審議の件及び事業計画案

質問 横沢寿美氏

奨学金は返還するか否か

答 三神会長

吉岡賞は返還せず、奨学金の細目は未だ決定していない 全員承認

第三号議案 昭和四十三年度事業計画案審議の件

社団法人申請経過報告

山崎倫子理事

昭和四十二年九月二十三日定款制定

委員が発足し、本年二月十一日の臨時総会でこの案が通過して以来、厚生省と度々折衝を重ねてきた。一方日本医師会長武見氏のサイドよりの協力もあり、順調に交渉は進んでいるので、近い将来に許可されるものと思う。

質問なし 全員承認

年金制度実施経過報告

大内広子理事

昭和四十二年五月の総会で年金案についての掲案があり、昭和四十二年七月二十九日の臨時評議員会で年金制度が決った。

昭和四十三年二月二十四日教社の中より安田信託に決定委任協定を結ぶ。

昭和四十三年五月十五日現在

総数加入者 一五二名 三二二〇

地方 八十一名 一六〇〇

東京 七十一名 一六二〇

目標は千口でよろしく協力を乞う。

質問なし 全員承認

第四号議案(社団法人) 日本女医学会定款審議の件

松岡宏子理事 昭和四十二年九月二十三日定款制定委員が選出され、昭和四十三年二月十一日臨時総会でこの案が通過する。今後現案に厚生省の意見を入れて定める事になる、今後の問題点は細則案の審議になると思う。意見のある方は、手紙で本部迄申し出て下さるよう。 全員承認

第五号議案 万博旅設参加の件 東条一子理事 昭和四十三年二月十一日臨時総会で

この案が通過して以来、現在はまだ正式に契約はしていないが、この万博へ申し込みをするという事が、経済的の野心のない、また一億円に相当する医療奉仕という点で報道人に高く評価され、大々的に報道された。このため資金面について皆様に心配をかけて申しわけない。一億円の資金の必要なことは、医療奉仕を金に換算して計算したので一億円の金が必要である事とは違うので了承願いたい。

尚医療奉仕に対してさやかな礼金を出したいと思うので、その面の資金調達により方法があったら知らせてほしい。

質問 南 春枝理事

関西地方会員全員の協力が必要と思うので、具体案を知らせてほしい。

答 三神会長

万博の対策委員会を地元と東京に作り推進させる、特に大阪府女医学会の協力をお願いしたい。

発言 大阪府女医会長 橋本恵美子理事

大阪には大阪府女医学会並びに日本女医学会との両者があり、大阪府女医会員は全員日本女医会員とは限らない。

日本女医学会が万博に参加する事になったが、大阪府女医会員全員が是に協力出来るよう努力をしたと思うが、大変困難である事を報告しておく。

橋本氏は現在の自分の立場を切々と述べ、出席者一同日本女医学会の万博参加の成功のために努力をして下さる橋本氏に心よりの応援の拍手あり。

緊急動議 荒川あや氏

私財一千万円で女子医大の校債を購入し、その利子の百万円を吉岡賞として活用して戴きたいと思う。

尚この吉岡賞の選考には別に委員会を作って戴きたい。

会長

感謝します、荒川氏を中心に選考委員会を作りたいと思う。一同拍手

ここで広島県知事永野氏が登壇し、今後一層の女医の活躍を祈るというメッセージをおくられた。一同拍手

ここで又提案あり。

小出つる氏提案のルーペンダムの紹介があり、万博の資金作りに役立ててほしいとの事。一同拍手

第六号議案 次期総会開催地の件

大阪での掲案があったが大阪の橋本氏は、大阪府女医学会の総会後に定めたので返事はそれまで保留してほしい。

八割方は引受けられると思うが、万博の前年なので、細かくは手が廻らないと思うので了承を乞う。一同承認

評議員会で、大阪が確定しないのならば別の候補地をという掲案もあったが、今回は大阪一本で行くことにした。

議事終了

「原爆後障害症の展望」

広島大学教授 志水 清博士の講演抄録は次回掲載いたします。

昭和42年度収支決算明細書 自昭和42年4月1日 至昭和43年3月31日

収入の部

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 比較増減. Rows include 会費収入, 寄付金収入, 雑収入, 名簿送料, 利息, 其他, 計.

Table with 2 columns: 科目, 金額. Rows include 前期繰越金, 事務所引当金, 名簿引当金, 故佐藤会長寄付金, 会費前納金, 社団法人設立準備金.

昭和42年度末財産目録 昭和43年3月31日現在

資産額 7,573,338

Table with 2 columns: 項目, 金額. Rows include 富士銀行定期預金, 普通預金, 安田信託銀行, 振替貯金, 有価証券(校債), 現金.

昭和43年度予算 (自昭和43年4月1日 至昭和44年3月31日)

収入の部

Table with 3 columns: 科目, 予算, 摘要. Rows include 繰越金収入, 会費収入, 寄付収入, 財産収入, 計.

支出の部

Table with 3 columns: 科目, 予算, 摘要. Rows include 事業費, 事務費, 俸給諸給, 諸手当, 什器備品費, 事務所費, 光熱費, 通信費, 印刷費, 旅費交通費, 会議費, 国際会費, 慶弔費, 名簿費, 消耗品費, 雑費, 予備費, 社団法人設立準備金, 計.

第十一回国際女医学会理事会報告

国際連絡書記 小野 春生

本年六月二十三日より六日間にわたり、ウィーンにおいて第十一回国際女医学会が開催されました。三十四の加盟国のうち、三十一カ国から参加者が約七百名インターコングレスホールに集まり、「飢える百万人」のテーマで議論がかわされました。日本女医学会からは三神会長をはじめ、仁瓶礼子、小野春生、山崎倫子、青木良枝、中西清子、赤坂サナミ、峯 信、阿部秀世、及川富美子、出田艶子、柳瀬好子、稲熊千代、溝口すま子、遠藤ハナ、大貫京子、延島秀子、奥田霜子、古橋美智子、加茂裕子、山本美代子、川村登美子、千島チエ子、佐藤千代子、森川みどり、土屋臣子、藤尾良枝、中島シズ、松尾周子、西山保子、古沢サチ、松岡和子、吉岡敏子、真中はるえ、柳瀬路子、清水五百子、芳野由次、武藤キヨ、豊島章子、横田浦子、鈴木美代子の計四十一名出席致しました。

理事会の決定事項と致しまして、国際女医学会会費を四シリング(英)二百円か六シリング三百円に上げることになりました。これは英国のポンドが国際的に安くなったことと物価が上がったためで、インド、日本、英国等の理事は反対しましたが、結局値上げとなりました。

一九七〇年(昭和四十五年)の第十二回国際女医学会は、オーストラリアのメルボルンに於いて五月十四日より二十日まで行うことになり、テーマは産業にたづさる婦人の健康「Women in Industry」のテーマです。

一九七二年(昭和四十七年)の第十三回国際女医学会はフランスのパリで開催されることになり、テーマに「トキシプラズモージス」を取り入れることになりました。何月かはまだ未定でございます。

講演及び議論の結果、国際女医学会としての推薦事項のうち主なものは、一、世界各国に世界全体の食糧、人口問題を良く知ってもらい、それに対する教育又は家族計画を、今から行う必要がある。二、避妊方法が、男女の身体又は精神に及ぼす影響を考慮して、よりよい方法がないか研究の必要性を認める。三、安全な避妊方法を医者、医学生に教え、一般民衆をよく指導出来るようにする。一般人が指導も受けずに気易く薬局に行かないようにする。四、四学校での栄養学の指導が不十分な国に於いてはそれを行う。五、女医の国際的な交流を持ちこれを盛んにするようにつとめる、等がございました。





ウィーン市長招待レセプション

理事会での選挙により会長はオーストラリアのロイドグリーンに、次期会長はスエーデンのヘルステフド、書記長にオーストリアのキューリ、会計長に英国のクロスに定まりました。副会長は地域別なので九名、北欧地区(デンマーク、フィンランド、オランダ、ノルウェー、スエーデン)からはデンマークのクリステンセンが選ばれ、英国は会員多数のため特別で、ここからはエセルモント、中欧地区(オーストリア、ドイツ、スイス)より独逸のオーネゾルゲ、南欧地区(フランス、イタリア、スペイン)よりフランスのオンリ、北アメリカ地区(カナダ、米国)より米国のモラーニ、南アメリカ地区(アルゼンチン、チリ、ブラジル、コロンビア、グアテマラ、ペルー)よりブラジルのストルツ、近東及びアフリカ地区(イラン、イスラエル、レバノ

ン、マダガスカ、南アフリカ連邦)よりイランのピルニア、中部アジア地区(インド、タイ、ヴェトナム)より、タイのタルマバンニ、西太平洋及び極東地区(オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、中華民国、大韓民国、香港、日本)より私が副会長として選ばれました。どうか今後ともよろしく指導、ご協力をお願い申し上げます。以上理事会で行われた主なこととでございます。

閉会後に行われた役員会(会長、副会長会議)でオーストラリアで行われる一九七〇年の演題「産業にたざざる婦人の健康」の演者募集の件が出ましたので皆様に是非お伝えするべきと存じまして、ここに報告致します。未だ決定案が出来ておりませんが、産業にたざざる婦人の一般健康、流産率、月経不順等婦人科の立場から、又皮膚科、又は整形外科的、又は眼科的立場から論議されます。又その家族、精神衛生、心因性疾患又はパートタイムの見地から、就職前の身体検査、胸部疾患、栄養、感染など、また事故予防、身体及び精神的リハビリテーションなどについて論議されるのでございます。講演は英語又は仏語でございます。会員の皆様の中でペーパーをお出しになりたい方は、十一月末日までにお名前と略歴を日本女医学会本部までお知らせ下さいませ様にお願い申し上げます。ウィーン本部からそれまでには決定プログラムが参りますので、どうかお申し出下さった方々は勿論の事、

お問い合せがございましたら詳細についてお答え申し上げますと存じます。

### 広島女医学会のこと

嘉屋 文子

やわらかい日差しをうけて町を歩きながら、ふと全国日本女医学会総会が開かれたときのことどもを思い出しています。



平和記念公園の原爆資料館

た。それは、去る五月十八日に広島市のグランドホテルで開かれ、年令からいえば八十才から二十六才までの、地域からいえば、山形県から四国、九州にいたるまでの、二〇〇余名の女医のついでであった。

議事のうちでは、万国博覧会の会場に救護班を六か所設置し、これを女医会が引き受ける準備にはいったという

ことなど、京阪神地方の方々の奉仕のお仕事ぶりを示すもので、感銘が深かった。会合者一同が、十勝沖地震被災のかたがたに見舞金を送ろうという話がまとまり、すぐさま十二万円近く集まった。まことにさわやかなことであつた。

知事、衛生部長や県・市医師会長から祝辞をいただき、また懇親会では、各地のかたがたのお話を聞くこともできました。にぎやかな会であつた。十九日には市内観光をし、宮島へ向かったのであるが、「美しい町ねえ」「大きな道路」「公園もいいわねえ」などの声々が聞こえる。

慰霊碑にお花をささげ黙禱する。資料館、フィルムを見られた各地のかたがたに、当時の何十分の一がわかってもらえたかしら、などと思う。ともかく、直接被爆したわたしとは、ずいぶんのずれがあるように思えてならなかつた。

わたしは、四〇数針縫合の切り傷を一〇数時間放置され、出血死の手まえまでいっていた。そのわたしが今日まで生き得て、今は何人様のためにお仕事をしないでは、相すまない気持ちで日を送っている。じつは、わたしの足のうらからは「わたしたちは、日本祖国を愛し、祖国のために、みなさまのために喜んで死んでいきますよ」というささやきが聞こえつづけてならないのである。

何十万の犠牲者の死を無にしてはならない。このかたがたのおかげで、今日の平和は訪れているのだと思う。悲惨な老若の市民たちのことを思っしてほしいと思ひ思ひして、宮島へと向かったのである。

五月十八日には、被爆者対策としての特別措置法が国会を通過したという。わたしは被爆者のひとりとして、なんだか涙がにじみ出るのをおさえられないのである。

### 第十回国際女医学会総会出席報告

山崎 倫子

ウィーンは北のバルト海と南のアドリア海を結ぶ道と、西欧と小アジア地方を東西に結ぶ道との交差点にあつて、今から一〇〇年余り前までは高い城壁に囲まれた要塞都市であつたそうだが、今日ではその跡が環状道路にな

っており、多くの音楽家の像がこの道路のあちこちに建てられてあり、音楽の都としてのムードが横溢し、パロックの都とも呼ばれる程多数のパロック風宮殿や劇場、教会等が建ち並び、中でも一七四九年マリア・テレサ女帝の

時代に建造されたシェンブルン宮は最も美しい。

今回私達の参加した第十一回国際女医学会総会の開かれた Kongres Lentrum (キングレス・センター)はHeldenplatz (英雄の広場)の奥まったところであり、ウィーンで開かれる国際会議の殆んど全てが此処で行われるのである。

Kongres Lentrum は前にマリア・テレサ広場、左右に市民庭園とブルグ庭園等の緑に囲まれ、又ルーブルにも劣らぬと云われるコレクションを持つ美術館、博物館にも近く、キングレスを開くには誠にふさわしい場所と云えよう。

総会の学術部門のテーマは "Hungry Millions" (百万人の飢餓) で三十四カ国から約七〇〇人余の女医が参加した。学術部門は四日間にわたって①人口増加とその対策、心理的、宗教的、教育的見地からみた人口問題、②食糧問題と栄養並びに疾病についての二つの大きな観点からの講演が行われた。

WHO, FAO, UNISEF, ウィーン大学医学部長、保健局長、社会福祉局長、その他多くの来賓の祝辞の後、オーストリア大統領フランツ・ジョナス氏によって総会の開会が宣言された。その後で、アメリカ合衆国ミシガン大学の G. Borgstrom 教授によって「世界の危機——健康と飢餓の二重の挑戦」というテーマで、特別講演が行われた。

社交面での行事はまたウィーンなら

ではの華やかさで、ウィーン市長招待の奏でる数々のワルツの名曲をききながらのレセプションで、輝くばかりのシャンデリアの下で、飲み、食べ、踊る、ムードあふれるものであった。オーストリア女医学会主催のカクテルパーティーは、医学史研究所で開かれた。他にダニューブ河下り、スペイン乗馬学校、国立オペラ、モーツアルト、ハイドン、ベートーベン記念館等、音楽の遺蹟巡り等が企画されており、好みと時間に応じて参加するものも多かった。最後の夜はオペラハウスで晩餐会が催されたが、七〇〇余人の各国の女医達はそれぞれの国の色とりどりの服装、又はイブニング・ドレスに正装して出席しウィーン・フィルの熱演をききながら、同席の女医達と学問を離れてのおしゃべり等楽しい時間を過ごした。

二十三日登録、二十四日午前開会式と特別講演、二十四日午後から二十五日、二十六日、二十七日の四日間にあたって三十二人の各国女医による一般講演が行われた。(内訳は米國六人、オーストリア五人、ドイツ四人、フランス三人、スイス、オーストラリア、英國日本各二人、フィンランド、デンマーク、オランダ、ノールウェー、インド、イタリー、ガナ各一名であった。)

テーマが臨牀的なものでないので、誰にでも興味深いものばかりとは云えなかったが、少くとも今日の最も重要且つ急を要する社会問題である人口と食糧の問題、自由世界に於ける豊かな

生活とはまったくアンバランスに、栄養失調、貧困と無知、絶対的食糧不足、特に蛋白質不足によって起る栄養障害、目を被いたくなるような惨めな後進国に於ける生活等、カラーフィルムを通しての訴え……女医として当然無関心ではいられない、心に強く刻まれるものであった。

講演内容については紙数の関係上詳しくお伝えする事が出来なくて残念であるが、簡単に紹介したい。



ウィーン市長レセプション席上の筆者  
山崎倫子氏(中央和服)

に最も恐ろしいものは、原子力ではなく Social Energy 性エネルギーである。所謂後進国(注、国連では現在後進国という言葉は使わず、開発途上にある国と表現することに決められている。)だけの問題ではなく、西欧もアメリカも決してその例外ではない。家族計画に対する考えは今やキリスト教もカトリックも原則的には必要なことと肯定している。最も大切な事は、指導者及び一般に対する受胎調節及び家族計画に関する教育と普及に力を注ぐことである。人口の調節は妊娠中絶という手段ではなく、妊娠を予防する手段、即ち教育、指導、普及に家庭で、学校で、教会で更に全ての医療関係者によって具体的に指導されなければならない。私も第一日に講演した。(講演内容は前号掲載)

第二日は栄養の過不足両面に於ける疾病、特に低カロリー食と栄養素の不足から起る "Kwashiorkor" (栄養失調症)、栄養指導をどのように行うか、老人に於ける偏食からくる栄養問題、老人ホームに於ける調査、小児期に於ける栄養の摂り方が成人になった時どのような健康上の障害をもたらすか、重症栄養失調に於ける肝機能障害、日本に於ける子供の栄養と発育(小野春生氏発表)等の講演も興味あるものがあった。

第三日目は、土地の改良、化学肥料、灌漑による農地の改良について、立体的、空間利用による農産物の増産、例えば高層ビニールハウス、高層特殊ガ

ラスハウス等、滑車応用の移動栽培法、食糧の保存法、又大小さまざまな災害時における対策の重要なポイント、特に水と食糧の確保と保存、通信と運搬網の確保、個々及びチームの訓練等について、飢餓病のひきおこす精神的、心理的及び臨牀的症候、蛋白質不足に処する対策として魚類、魚製品或は粉末食品、石油化学の発達による合成食料の実験的研究等について発表があった。

第四日目は、人口政策の歴史、スイスにおける家族計画、次のホルモン系経口避妊薬の十年間の使用経験についてのオランダの講演は大変興味があった。経口避妊薬(ホルモン系丸薬)の間違った使用法は別として、正しく使用しているものの経過十年を追っての調査によると、いろいろの副作用がある。例えば、食欲の亢進、それに伴う体重の増加を服用者は訴え、夫側からは妻の情気(不精になる)、癩癩、性欲の減退等が訴えられている。又常時服用者は老化が非常に早く現われ、時にアルテリオ、スクレローゼがおこる。

服薬を一時中止した後再び服用を始めると副作用は一層烈しくなる等多くの問題がある。(注、私の講演の後で、日本では避妊丸薬を使っているかという質問がありました。日本では経口避妊薬はまだ大病院、公立又は特定の病院で実験的に使っている段階で、いろいろの報告があるが、日本の厚生省では一般の使用は未だ認可していな

た。

た。

い。従って一般には市場で売買されて  
いない。と答えたのですが、講演の後  
で、日本が経口避妊薬の一般利用にふ  
みきらないことは非常に賢明なことだ  
ある。おめでとう／＼と云われまし  
た。次に食餌の心臓血管系の死亡に  
対する影響について、インドの妊婦に  
みられる貧血について、最後に栄養失  
調からくる抵抗力の減退と疾病、即ち  
早期老化、結核、レブラ、カラザール、  
種々の皮膚病等について、カラー・ス  
ライドを写しながらの招待講演がガ  
ナに派遣されている尼僧医から行われ  
た。

私達はこの総会のテーマとなった問  
題が大変重要な問題であるとの認識を  
もって持っていたが余りにも幸せな、恵ま  
れた生活を送っている故に、今までは  
その感じ方が只学問的興味であつた  
り、非常に抽象的であつたことは否定  
出来ない。今回第三の世界とも云うべ  
き人口過剰と食糧不足に悩む国々、そ  
してやがては全世界の問題となりうる  
この事態の解決に、豊かな国も、富め  
る国も、共に負うべき問題が多くある  
ことを身に沁みて感じた次第である。  
病原の究明、新薬の開発、治療の発  
見、早期治療、予防医学、環境衛生等  
々医師のなすべきことは多いが、世界  
の平和のために今程人間の叡智を傾け  
る問題が多い時はないのではなからう  
か!

“Hungry Millions” というテーマ  
の会議に参加し、僅か一月とはいえ  
欧州各地を旅し、我々は何時も何時も

余りに充ち過ぎた食事に遭遇し、そ  
の多くは無駄に捨てられてしまふであ  
ることを考える度に、勿体ないこと  
だ、何とかならないものだろうか、食  
糧分配のアンバランスが、そして云  
いようのない矛盾が胸を痛めるのだ  
た。これが自由世界の、コマーシャ  
リズム（商業主義）の避けられない原則  
なのだろうか？ それでは我々の研究  
や討議は——少くとも部分的には——  
結局空論に終わってしまうのだろうか？

真砂路 (一) 青樹

わたし（福田幹子は、拙ない随筆  
に「真砂路」という名をつけている。  
景色のよい浜辺にうつくしいまさご  
の路がどこまでもつづいている。わ  
たしはその路を一步一步進んでい  
く。歩むあとからその足あとが消え  
てしまふ。消えてもよい。わたしは  
この路がすぎだから、しかしその時  
考えたことなど書き残したい。真砂  
路（は本誌九号に「まますの心、ま  
ますの心」をかいた。

復活の都市広島で

第十三回日本女医会総会は昭和四十  
三年五月、広島市において開催された。  
折からわたしは病臥中であつたけれ  
ど、なにしろ郷里ではありまた、この  
会は創立当時より育ててきたようにも

等々……恵まれた日本での生活に戻  
た今でも何か脳裏にひっかかるもの  
が残る。  
ソ連の公衆衛生行政、ソ連での感想、  
又興味ある論文等も機会がありました  
らご紹介したいと思ひますが、既に長  
くなりすぎたようですので、取り敢え  
ずご報告致します。総会参加の機会を  
与えていただきましたことを深く感謝  
致します。  
(四三・七・二九)

思えて愛着もふかい故、むりを押し  
も出席することになった。帰りには郷  
里に足をのぼして、もう来られないか  
もしれないから、親戚の顔もみておこ  
うと、一週間の旅程であつた。  
娘や息子たちに付きごとを同伴させ  
られ、雨に煙る早朝の広島駅に降り立  
った。改築いらいはじめて訪れて、そ  
の壮観といえる変りようにぼうぜんと  
立ちつくした——広々とした駅前広  
場、見事な陸橋など、昔のさまもなし  
——その時

「福田先生ではありませんか？」  
と声をかけて下さったのは、原爆記  
事や著作で有名な嘉屋文子女士（東邦  
大卒医博）であつた。女士は原爆に関  
する著書「きのこぐも」他二冊の著者  
で、この際わたしはどうしてもお目に

かかると思つてきた方なののだ  
た。  
その方がこやかな温顔で、意外に  
もも迎えて下さり、ほんとうにうれ  
しかった。  
小雨ふる街をよも山の話になりなが  
ら車で宿舎に向かう。広い道の前に新  
大橋が架けられ、その橋を渡ると道は  
左右に分かれていた。右に曲るとまた  
橋があり、ようやくグランドホテルに  
落ちつく。遠くに見える山々は、どれ  
がなんの山やら見当もつかないありさ  
ま。

これが二十年前原爆をうけて、材木  
とかわらと土塊と死体の山の曠野であ  
つたか。この土地には草も生えないで  
あろうといわれた土地と思えようか。  
とにかく隔世の感がある。そして同時  
に人間というものの驚くべき根強さ、  
生命力と生活力の吹き出るような旺盛  
さをまざまざと見るのに、これほどよ  
い見本、典型的な都市はほかにないの  
ではあるまいか……

人は忘却によつて救われるという。  
残酷なこと、むごたらしい悲劇、血な  
まぐさい風。たしかにいつまでもそん  
な思い出にとりつかれ、さいなまれて  
いたのではこれだけの復興はのぞめな  
かつたであらう。  
しかし、わずかに望まれる原爆ド  
ム、記念館。著者や観光客がそこを訪  
れてやうと当時をしのぶすがととす  
る。日本中の人も原爆記念日がめぐ  
つてくるとやうと「ああそうだった  
な」と思い出す。そんな平和めいた外

見をもつ広島市——美しい緑地。  
だがここに現在、一〇万人の被爆者  
が住んで病いを養ひ、いつ発病するか  
もしない白血病におののき、子供へ  
の遺伝を恐れて妊娠をさける——そう  
いう不幸が厳然として存在しているの  
である。この事実から目をそむけては  
ならないと思う。

ふとテレビでみたベトナムの、  
ボール爆弾でやられた子どもの姿がう  
かんできた。戦争という野蛮な行為  
を、広島、長崎の現実の二十数年後で  
も、まだ人類は卒業できずにいる情な  
さ——。

万感こもこのうちに午後になつ  
た。総会の出席者は文字通り全国的だ  
から、今だに雪をみる北海道から、南  
の果ての鹿児島、常にひっそりと目立  
たない山陰などからまつたく思いがけ  
ぬ出席者であつた。ただ先頃の十勝沖  
地震のため、東北地方の出席者が見ら  
れなかつたのは残念の至りであつた。  
わたしは最年長者であり、それに本  
県の出身者なので皆さんから重宝がら  
れてひとしおうれしかつた。またこの  
会ばかりはと昨年から病気を患して  
の出席なので、「よくぞ来られました  
ね」と皆さんからあきれられたり、い  
たわられたり。老人というもののあり  
がたさと悲哀とをこもも感じないわ  
けにはいかなかつた。記事は他の方に  
委して、本会の増々盛んになることを  
念願して筆を擱く。

☆ ☆ ☆

### 美術と西洋史の三週間

(ウィーン国際女医会に出席して)

編集部 柳 瀬 路 子

今回の国際女医会総会について総括的な事、学会の様子などは会長及び連絡書記が書かれると思うので、私は出席した一会員としての感想及び学会の後を述べてみたい。

大づかみの事を言えば今回の国際女医会への参加は大成功であったと思う。時は将に平和たけなわ。所は音楽と芸術の都ウィーンという事で、参加人数も四十一名の多きに達し、四十一名のマリア テレジアが学会の後の三週間を、ヴェニス、ローマ、ジュネーヴ、モンブラン、パリ、ハイデルベルグ、アムステルダム、ロンドン、コペンハーゲン、ベルリン、リスボン、マドリッドと荷物を展いてはまとも、且見学し観光し、買物をして、大移動するのであるから、これは帰国してから考えても大変な事であった。病人が出て当り、何かアクシデントがあつて当り前の事で、取り立てての何事も無く、全員無病息災。羽田で解散する時は、皆楽しさ一杯残り惜しさ一杯で、再会を固く誓って別れる事が出来たのは、僥倖であつたと言つた方が良くかも知れない。

振りかえつて其の因る所を考えてみると、三神会長、山崎、小野両姉が始

終黙つてウオッチしておられた中で、メンバー各自が良識を以つて身を処し、団体行動を離れず、かと言つて拘束もされず、至誠会も加多乃会も鶴風会も無く、各個のペースで動き、身体を休め、観る物は観て来た。——という事であらうか。

それに又日海の案内人が誠に博学多識、しかも程を心得た人で、マリア・テレジアやミス・ナポレオンをエスコートするに打つてつけの人であつた。目的地へ入る前のバスの中でこれから訪れる国の歴史、地理、美術の見所を日本の年代と比較してベラベラと立板に水を流す如く話してくれる。仮令は「イベリア半島はナポレオンが、アフリカはビレネーから初まる」といみじくも言いました如く所謂ヨーロッパ大陸とは全く変つた所でありまして、始めはフェニキア人に依つて開かれた。

次いで紀元前三世紀頃はローマ帝国の支配下にありましたが、民族の大移動がありまして大体東ゴート人が入つた。次にヨーロッパはアフリカの一民族が席捲するのですが、このムーア人を所謂ヨーロッパといわれるところでは比較的早く追払つたのですが、イベリア半島には九〇〇年の長きに渉つて

留まり、やつと追い落したのはい最近の事です。そのためスペイン、ポルトガルの文化は所謂ヨーロッパ文化とは異質のものになっていてアフリカの色の濃い。顔も民俗も混血した特別のものになっていきます」といった調子。ヴェルサイユへ行つてもシェンブルンへ行つても案内人の説明を通訳する時更に尾ひれがついて多彩な説明になる。「ご希望があればご案内します」という事で同好の士が随分沢山の美術館を案内してもらい、短い時間を有効に使つてピクアックした絵を簡潔な説明で観賞させてもらう事が出来た。

又ウィーンではベートーベンが田園交響楽を作曲したというハイリゲンシュタッドへ連れて行き、彼の歩いたという散歩道、彼の住んだという家を訪ね、小川のせせらぎを聞き鳥の声を聞いた。本当に花も実もある観光の三週間でした。

中でもウィーン滞在中に行われたザルツブルグの小旅行では、余りの楽しさに帰りのバスの中はリード民謡歌謡曲のど自慢大会になり日海氏とひばり嬢の大競演になった位です。

アムステルダムでは「昨夜も宿へ業者がおしかけて来ているのを存知でしょうが、此方でダイヤをお求めになつて本当に得をしたという話を今迄伺つて居りませんので、研磨工場をご案内はいたしますが、見学文けにさいました方がと思います」という誠に適切なアドバイスがあり、又一同様に素直に言う事を聞いたため、今度のメン

バーでは恐らく羽田の通関でヒヤヒヤされた方は一人も無く、且つその余力で充分買物を楽しまれた事と思う。学会にあつては山崎さんの凜乎とした講演は全会場の耳目を奪ひ、且つ殺到した質問に実に堂々と応酬して居られた。会員の中では嬉しくて涙ぐんで居られた方もあつた位。且又小野春生女史は国際女医会の副会長に選出されて我々日本女医会には面目を余す所なく立てて帰りました。

これからの国際的な集まりには成るべく出席して広く友を求め、視野を広げて、世界に通じるスケールで物を考え仕事をしたいと思う。

終りにウィーンに同伴して下さった全国の会員諸姉にカマラードの敬意を捧げ今後のご活躍を祈ります。旅の中で発句をものし、スケッチをして居られた会員が沢山居られました。どうぞ誌上に御披露下さい。

(四三・七・二六)

### 山口観光に

#### 参加して

小野田 加津

第一日目は広島での総会後懇親会、第二日目は広島市内観光ならびに宮島口観光、第三日目宮島口から広電バス

に乗り込んだ、我々四十余名の山口観光班は定刻十六時に出発し、一路西へ向いました。緑したたる若葉のかけから、立ち並んだ家並の間から、チラチラ見えかくれする、瀬戸の海の美しい眺めに目を奪われて、一時間程も走るうちに、大竹の工業地帯を抜けて、車は岩国市入りしました。市の西方を流れる錦川にかかる半円形の五連の木橋は、有名な錦帯橋で、橋梁建設の中では異彩を放ち、徳川時代の三名橋の一つと言われました。吉香公園の緑をバックに、錦川の流れにその優雅な姿をうつす錦帯橋は、名画さながらの静かなたたずまいを見せておりました。ここで小休止、三々五々河原に降りて、お互いのカメラにおさまつたり、立ち並ぶよじろ張りの土産物屋で、絵はがきを求めたりして再び車中の人となりになりました。

ようやく薄暮の迫る道を、車はひた走りに走り、徳山をすぎ右に折れ、ゆるやかな山路にさしかかりました。海岸線を遠のくにつれ空気のにおいも変つて来て大自然の妙味を感じました。

やがて暮色も濃くなった湯の里湯田町に到着、一行は今宵の宿千登世に入りました。この湯田町は明治維新のころ、三条実美などの七卿が、京都をのがれて滞在していた所と聞きました。宿は町なかのこととて、温泉宿のような感じは致しませんでした。が、ひとたび庭に出ると、目もあけておられないような咬の大群の襲撃に、田舎に育つ



た幼い日になつかしく思い出しました。

温泉は単純泉ですが温度も高く、湯量も豊富なのでまことに心地よく、今日一日の疲れと汗をさっぱり流して、宿の湯上りゆかたに着かえ、夕食のため広間に集まりました。広間には三人の婦人が待っていらつしやいました。「少しも存じませんでしたので、お迎えにも出ませず、失礼致しました」とご丁寧なご挨拶に、一同目を見はっておりますと「山口市には数人の女医が在住致しておりますが、急なことで連絡も悪く、私達三人が参りました」とおっしゃいました。三人の婦人は山口市にお住いの牧野操、早川礼枝、野口政子さんという女医さんでした。

一同は一瞬息をのみましたが、次の瞬間にはわあわああきあきあきと嬉しさとなつかしさの余り、先刻の改まった雰囲気をつべんに吹きとばして、旧情(?)をあため合いました。全員めいめいに結構なお土産を頂き恐縮致しました。誌上をおかりして厚く御礼を申し上げます。

此の度の旅行の最後の夜は、お三方のご来訪で一入たのしく更けて行きました。

明くれば二十日、気づかわれた空模様もまあまああつた天気、勇躍バスに乗り込みました。一人のお寝坊さんもなく、バスは予定通り八時三十分千登世をあとに致しました。目にしみるような緑の野を走り、若葉のトンネルをくぐって、秋吉台国定公園の秋芳洞入

口に着きました。秋芳洞は特別天然記念物で、秋吉台の石灰洞中最大のものです。その巨大で奥の深いことは、世界でも一二と言われておるそうです。長さ十軒のうち入洞出来るのは一軒の地点までですが、洞内には鐘乳石、石筍、石柱、石灰華などが発達し、地下水も豊富で、急流や滝、湧となつて奇観を呈しています。内部は照明もよく足場も完備して、充分たのしみことができました。と言っても、日頃訓練の足りない脚は言うことをきかず、登り降りの多い洞内一軒の行程はさすがにこたえ、出口にたどり着いた時はフワフワとせわしげに息をつきながら汗をふきました。

全員揃ったところで再びバスにのり、秋吉台に向いました。僅か五分ばかりの山路を登りつめると、眼前一面に小羊がむれ遊ぶような台地が開けました。この台地は古生代の石灰岩で出来ている、日本最大のカルスト台地であります。萌えるような若草や灌木の間、点々と露出している石灰岩の白い肌は、小羊の背のように愛らしく、はるばると連なる起伏は、思わず歓声を上げる程の素晴らしさ!! あいにくの曇り空ながら、乳色にかすむ大気は甘くたのしく、私達をつつんでくれました。ここで小半時、自然の偉大さを満喫してよいよ帰途につきました。あと一時間ばかりでお別れです。バスにゆられながら又来年の日本女医学会にも、元気で参加出来ますようにと心に念じました。つきぬ名残りを惜しみな

がら、小郡防府の駅からそれぞれの家路に急ぎました。広島に引き続きいろいろとご配慮下さいました幹事の先生方、ほんとうに有難うございました。

### 長野県支部会に出席して

副会長 松岡宏子

去る六月二十三日、三神会長が国際女医学会に出席されましたので、突然私が長野支部会に出席させていただきました。

長野県は年一回支部大会をなさいます由。会場は県内各地からの参加者のことを考えられて長野駅前あぶらや旅館。何しろ私にとって支部会に出席するのは初めてのこと。集まられた十八人の先生方には、各地から汽車で参加された方々が多く、私のように東京にばかり任んでいる者には、交通の便のよくないところを、少しも苦勞に思われずに出席なさるその熱心な気持ちにまず頭が下る思いでした。このように大きな県を一つに纏めるといふことは、大変なことだとつくづく思いました。

万博のこと、社団法人のこと、年金のこと等々、沢山の問題を説明しなければならぬし、それよりも、もっと支部の方達の会に対する希望などを伺いたいし、頭の中を混乱させて参りましたが、幸い支部長の井手ひろ子先

生が五月の広島での総会にご出席なさいましたので、実に適確にすべてのことについてご説明がありました。又総会を地方ですること大変よかったです。総会に出るといろいろよくわかると仰言られ、今後多くの方々が出席されるようにとおすすめてあります。支部会としては井出先生が今年一杯で東京に移られ、お仕事はご子息様方にお任せになりご勇退なさいますそう



長野県支部会 (於 あぶらや旅館)

で、次の支部長の選挙がありました。新支部長星野礼子先生(軽井沢) 副支部長吉田登喜先生(上山田町)と決まりました。

まだまだお元気な井出先生には今後東京でのご活躍を、楽しみにいたしております。私は支部の方達の希望などを直接伺うのを一番楽しみにして参りましたが、開業医に必要な例えば税問題、健康

保険の請求方法等の講演を総会に入れて欲しい、万博の基金として白衣を売るには、矢張り着物用がないと申込みが出来ない等々。いろいろの面で全会員の希望を全部取入れることは不可能であります。多くの会員が「会誌」のみで会の動向を知るといふ現状では、もっともっと支部会を利用して、直接膝を交えて話しあつて、交流することの必要を感じました。どうぞ各支部でも支部会の時などに、本部をご利用下さるようと思ひます。

終りに、朝六時に発ち、夕方六時に長野を発つと日帰りの急がしい旅でしたが、駅までお出迎え下さいました井出先生初め諸先生方、鯉の洗ひ、鮎の塩焼等々、食べきれない程の珍味の数々、楽しい歓談の一時、その上会終了後私のために、お疲れのところを懇々長野市内、戸隠までハイヤーで見物させて下さいました市辺先生、酒井先生、越先生、本当にありがとうございます。

た。桜んぼのなつている木、りんごのなつている木、眼に痛い程しみる青葉の中を、素晴らしいドライブで山へ山へとむかって行く、あの美しい景色は本当に素晴らしい休日でした。本場のおそばも又美味しく、なんと楽しかったことでしょう。

お土産にいただきましたお菓子も、七月二十七日の理事会にご披露させていただきます。今後の支部の発展と諸先生方のご健康を心から祈りあげております。

健康を心から祈りあげております。

『ルーペンダン』について



4.5 cm × 3.5 cm  
くさり約 70 cm

一九七〇年、万国博に際して、日本女医会から、資力、人材共に協力することになったと承わり、人材は不足のないことですが、何としても資力の寄付については未だ実力にやや欠ける女医会として、その財源捻出のためにご努力中とのこと。兼ねてから、私共が考案し、方々で試用されたデータを出して頂き完成したもので、私達昭和十五年東女医卒のクラス会の財源として用いておりましたルーペンダンというものを、一小クラス会の実利のみに利用するのは惜しいといわれておりましたので、丁度広島の日本女医会総会開催の節集まりましたクラスメートに計り、このアイデアを日本女医会に寄付いたすことにしました。

高知県 小出 つる子  
伴ない眼を酷使することが多く、三十才台でも視力の低弱を来たす人が多くなったことは眼科方面にご関係の方々はお気付きかと存じますが、頭在性の老視でなくても、疲れたら視力が落ち他症状を表す人も増えたようです。ところが老眼鏡を用いるとなるといささか感覚的に抵抗を覚え、又は老眼鏡を購入しても置き忘れたり、一々取り出してかけるのも憶怯になったり、折にふれて詳しく眺めたいものも敬遠してしまったり、又外出先で一才見たい価格表、時間表、電話帳などもつい見るのをさけてしまふことがあります。その他往診先でアンプルの文字の確認を怠りがちになったり、諸種のわからざる実害を生ずることになります。それで携帯に便利で、しかも外見上には一寸気づかぬシャレたもの、という要点を満たすようなもの、つまり装飾としてペンダントになり実用に際してはルーベとなる、ネックレースにレンズをつけたものという基本の上に考案製作いたしました。幸い試験中に大好評を得ましたので、女医会に呈出したし、会の実行委員のご努力で、四十三年度の実用新案登録第五七七七二号に受け付けられましたのでいよいよ製作販布の段階も近くなつたと承わ

りまして、これが会の財源の一部のお役に立ちそうであることに大いに喜んでおります。  
ルーペンダンをご使用の折りは、必ず眼前単眼の老眼鏡とお考えになつてご利用下さいませよう。物に近づけて拡大して見るルーベでなく、眼に近く保持して対照を見るブリレ、とお考え下さいませよう。  
尚、用います凸レンズは眼科学的に単眼視としては最も普的利用率的あるプラス3デプトリーに一定し、光学的には良質のレンズを用いてあります。  
此の販布価格は二千円と決定したと承りましたが通常のネックレースやペンダントの市価が二千円―三千円位しておりますので光学レンズをそれに取りつけてしかも二千円は手頃な価格かと思っております。  
いづれ実物完成販布となりご利用になった方はその試用成績、又改良点等をお知らせ頂ければ幸いと存じます。贈り物、外国の友人へのプレゼント等といたしましたも大層気に入って常用しているとの便りがあちらこちらから参りますので、将来は外国のパテントも会として取っておかれるとよいのではないかとお考えております。

以上

理事会議事報告  
日時―昭和四十三年七月二十七日(土) 午後三時―五時…理事會  
午後五時―六時十分…國際女医会々議報告會  
場所―東京女子医大會議室  
議事  
一、庶務報告  
十勝地震見舞金  
NHK共同募金口へ寄付 十万八千八百円  
青森県支部徳山氏、黒田氏へ見舞金 一万円  
(徳山、黒田両氏より本会に寄付として一万円送金あり)  
四十二年六月十九日 第十一回國際女医会々議参加者結団式(於ホテルニューオータニ)  
四十二年六月二十日 國際女医會参加者一行四十一名出発(午前九時)  
四十二年六月二十一日 社団法人設立申請のため、厚生省に荒川あや氏約定書(吉岡弥生賞寄付金)、万博施設参加計画書を提出  
二、会計報告  
三万博施設参加の件  
(1)万博施設参加の件  
日本女医会として申し込む(了承)  
(2)万年社との契約  
契約金五十万円とし、二十万円を第一期分として支払う(了承)  
三、資金調達方法  
寄付金(會員、一般)ルーペンダン(価格一個二千円に決定)白衣愛の献金箱、その他資金調達方法を今後検討する。  
以上万博の件については今後万博委員会で随時委員会を開き理事會の承認を得ること。(承認)  
万博施設参加につき、医療サービスを第一義的なものとし、資金に余裕

のある場合に愛のキャンペーン等を行なう。(了承)  
四、事業計画細目に関する件  
吉岡弥生賞審査委員  
三神美和 荒川あや、中西清子、川野辺静、龍知恵子、中川富士、小俣喜久子、川那部喜美子、森千鶴、橋本恵美子、以上十名決定 (承認)  
五、その他  
。事務所として至誠會二階二部屋を借り月一万円支払う。  
。税理士(長嶋氏)を月一万円にて依頼。  
。山崎倫子理事汎太平洋東南アジア會議参加のため本会より二十五万円支弁す。(承認)  
六、國際女医會の件  
國際女医會参加者およびその他の理事から次回國際女医會々議代表者の決定は理事會で決議し、旅費等について次回理事會で検討するよう発言あり。  
七、各回理事會議事録署名人を二名づつ選出する。  
七月理事會議事録署名委員は阿部秀世氏、小野春生氏。以上  
寄付金  
日本海外旅行株式会社より 三十万円  
日本航空株式会社より 十五万円  
バーデン會、ノールウエー會、マニラ會、サンデヒールド會より 計四万円  
昭和四十三年八月二十日印刷  
昭和四十三年八月二十五日發行  
編集人 森 千鶴  
發行人 日本女医會  
發行所 東京都新宿区千代田町19  
印刷所 東京都港区麻布田島町63  
興業美術印刷株式会社  
題字 吉岡 弥生